

2022 年 8 月 28 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒12 番(旧 162) (SK 姉)

『わが魂醒めて』

聖書⇒ヨハネの手紙一 1:5~9 節 (MM 姉)

『わたしたちがイエスから既に聞いていて、あなたがたに伝える知らせとは、神は光であり、神には闇が全くないということです。わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を行ってはいません。しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にありません。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 2:1b~2 節

『たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。この方こそ、わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえです。』

礼拝讃美歌⇒296 番 (旧 164 曲、旧 291 曲)

『共に歩めよ』

聖書⇒ヨハネの黙示録 4: 6b~11 節 (SK 兄)

『この玉座の中央とその周りに四つの生き物がいたが、前にも後ろにも一面に目があった。第一の生き物は獅子のようであり、第二の生き物は若い雄牛のようで、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空を飛ぶ鷲のようであった。この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りにも内側にも、一面に目があった。彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、／全能者である神、主、／かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると、二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。「主よ、わたしたちの神よ、／あなたこそ、／栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、／御心によって万物は存在し、／また創造されたからです。』

聖書⇒詩編 92:2、5~7 節

『いかに楽しいことでしょう／主に感謝をささげることは／いと高き神よ、御名をほめ歌い

主よ、あなたは／御業を喜び祝わさせていただきます。わたしは御手の業を喜び歌います。

主よ、御業はいかに大きく／御計らいはいかに深いことでしょう。

愚かな者はそれを知ることなく／無知な者はそれを悟ろうとしません。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒274 番 (旧 302 番)

『御国に住まいを』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒142 番 (旧 58 番)

『渡されたまう』

《建徳》

聖書⇒ヨハネの黙示録 21:1b、4b、22:3a、5a 節 (KH 兄)

『最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。

もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。

もはや、呪われるものは何一つない。

もはや、夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。』

聖書⇒詩編 107:23~32 節

『彼らは、海に船を出し／大海を渡って商う者となった。

彼らは深い淵で主の御業を／驚くべき御業を見た。

主は仰せによって嵐を起こし／波を高くされたので

彼らは天に上り、深淵に下り／苦難に魂は溶け

酔った人のようによろめき、揺らぎ／どのような知恵も呑み込まれてしまった。

苦難の中から主に助けを求めて叫ぶと／主は彼らを苦しみから導き出された。

主は嵐に働きかけて沈黙させられたので／波はおさまった。

彼らは波が静まったので喜び祝い／望みの港に導かれて行った。

主に感謝せよ。主は慈しみ深く／人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。

民の集会で主をあがめよ。長老の集いで主を賛美せよ。』

聖書⇒マタイによる福音書 8:23~27 節

『イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従った。そのとき、湖に激しい嵐が起こり、舟は波にのまれそうになった。イエスは眠っておられた。弟子たちは近寄って起こし、「主よ、助けてください。おぼれそうです」と言った。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ。」そして、起き上がって風と湖をお叱りになると、すっかり凪になった。人々は驚いて、「いったい、この方はどういう方なのだろう。風や湖さえも従うではないか」と言った。』

聖書⇒ルカによる福音書 11:9 節 (SK 兄)

『そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 1:22~23 節

『神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 12:7~11 節

『一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって病気をいやす力、ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。』

聖書⇒マルコによる福音書 16:15~16 節

『それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。』

聖書⇒マタイによる福音書 6:33 節

『何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。』

聖書⇒マタイによる福音書 22:37~40 節

『イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。』』

礼拝讃美歌⇒483 番 (KH 兄)

『人生の海の嵐に』

《建徳要旨》